

黄色いダイヤ「牛黄」 価格高騰が及ぼす黄信号 配置薬製品価格上昇の傾向

発行：日本置き薬協会 事務局

医療用医薬品で最も高価なのは、薬価 9,320,424 円（1 瓶）の「スピンザラ」。乳児型脊髄性筋萎縮症という希少疾患に用いる注射薬で、遺伝子レベルから治療する画期的な薬剤とのこと。では、一般薬では何かというと、近年、原料価格が高騰している「牛黄」製剤ではないだろうか。一例として牛黄単味のカプセル製剤、製品名「ドラゴン牛黄」（三星製薬株、奈良県御所市）は、30 カプセル入り（1 カプセル 100mg）で 68,000 円。1 回 1 カプセル、1 日 2 回服用で 4,533 円となる。

牛黄は古来より「上薬」、「高貴薬」と称されてきた。三星製薬の資料に拠れば、「強心、解熱、鎮痙作用の他、多様な薬理作用を発揮することが認められている、牛の特殊な胆石のこと。胆石症になった牛からしか採れません。その数は誠に少なく、何百、何千頭の一つと言われます。（中略）BSE が発生して以来、牛黄は危険部位ではないのですが安全を期して使用出来る産地国が限定され、健康証明の添付など厳重に管理されたもののみが使用を許されております」とのこと。

20 年前は 1 Kg 当り 120 万円程度で、近年 230 万円前後で安定していたのが、昨年より高騰し始め最近では 600 万円以上となっても価格上昇感があり、尚且つ供給も不安定であると言う。

こうした状況の背景について、関係者の話をまとめると下記である。

- 供給量の減少 BSE が発生した米国等以外の豪州、南米の牛に限られている事
肉牛の成育年月を早めて屠殺するため牛黄が大きく重くならない事
- 需要量の拡大 日本国内の生薬価格が全般に上昇している事
中国人の所得増に伴う消費量が増大した事
投機対象となり消費実態と乖離した需要が発生した事
中国では従来、豚胆汁に脂肪酸等を混合した「人工牛黄」を医薬品の製剤原料として使用禁止としたため、牛黄の需要が拡大した事

牛黄が配合され、効能に動悸、息切れ、気付けをうたう製品に「救心」、「六神丸」があり、また発熱性消耗性疾患、肉体疲労時の栄養補給を効能にうたう 30ml、50ml のミニドリンク剤にも配合されている。牛黄の高騰によりこれらの店舗製品の納入価、小売価格の改訂は当然あるだろう。

配置業界においても上記製品は、メーカーより既に公式な発表がされているが、内々に伝えられているのは、牛黄配合の総合感冒薬、風邪薬の値上げである。配置薬の風邪薬は NB 製品との差別化を図るため牛黄を配合し、消費者への訴求点としてきたのがアキレス腱となってしまった。

因みに牛黄の価格高騰が納入価に影響するかを試算したのが下記である。

牛黄 1 Kg 当りの価格上昇分（円）×標準的な製品 1 個当りの配合量＝価格上昇額

$$\begin{array}{ccc} \downarrow & & \downarrow \\ (6,000,000-2,300,000) \times 6\text{mg}/1,000,000\text{mg} & = & 22.2 \text{円} \end{array}$$

標準的な製品の従来の納入価は 200～250 円であり、その 1 割前後の原料価格増は納入価上昇と販売価格上昇に直結することとなる。対面での情報提供と利用した分だけの配置販売により、価格上昇については消費者の理解を求め易いにせよ、デフレ経済下の価格増はマイナス要因となる。牛黄を抜去した処方薬の製品や、別途代替出来る生薬を配合した処方薬の製品の投入など対策が講じられるにせよ、今後の事態を注意深く見守りたいところである。

本件に関するお問合せ先 日本置き薬協会 事務局

〒332-0034 埼玉県川口市並木 2-30-6 内外救急薬品内
Tel 080-5514-7511（有馬） fax 048-251-9657